

会 議 録

1 会議名

令和7年度第4回大島区地域協議会

2 議題（公開）

1 自主的な審議

(1) 大島区の地域活性化に向けた取組について

2 その他

(1) 令和7年度第5回地域協議会の開催日について

3 開催日時

令和7年7月15日（火）午後6時30分から7時38分まで

4 開催場所

大島コミュニティプラザ 2階 市民活動室1

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：高野会長、岩野副会長、飯田委員、牛田委員、江口委員、中原委員、中村委員、布施委員、丸田委員、本山委員
- ・事務局：大島区総合事務所 佐々木所長、本山次長、武田市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、総務・地域振興グループ 高橋班長、梅澤主任

8 発言の内容

【高野会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・本日の会議録の確認は、本山委員にお願いする。
- ・自主的な審議（1）大島区の地域活性化に向けた取組について、事務局に説明を求める。

【高橋班長】

- ・資料1を基に説明。また参考として他区の自主的審議事項の協議方法などを説明。

【高野会長】

- ・事務局から説明のとおり、自主的審議事項のテーマを決めていきたいと思う。皆さんには、どのようなテーマについて審議するのかご意見をいただきたい。
- ・事務局の説明にもあったとおり、グループに分かれてそれぞれのテーマについて協議するケースと、全員で最後まで協議するケースとどちらがよいか。
- ・大島区の場合は、委員全員が新人ということで、まだまだ勉強不足である。協議に時間がかかる場合もあるし、あまり手広くやらずに1つずつ12名で審議をして、市に上申したらどうかと思っているが、いかがか。

(異議なしの声)

- ・旧大島中学校の活用等については、経費や時間の問題で難しいかと思う。また、Aグループの意見の人手がほしい方、手伝いたい方をつなぐ体制づくりについては、季節では冬期間や農繁期だけというような形で、年間を通して考えると、難しいのではないか。
- ・そうすると、Bグループで出た公園の整備、もしくはキャンプ場の整備について、皆さんから知恵を絞っていただいて協議をしたらどうかと思っている。それでよいか。

(異議なしの声)

- ・菖蒲高原とやすらぎの森については、分けた方がいいのではないかというふうに感じているが、いかがか。
- ・菖蒲高原については、だいぶ整備されているが、例えば、車を乗り入れてキャンプするという意見もあった。あまり経費をかけなくても可能ではないかと考える。
- ・やすらぎの森については、管理人の問題などがあり、今の状況では探索はできてもキャンプは難しいかと思う。
- ・公園の整備については、今、大島区にある7か所全ての公園を整備とするには、経費的な問題、それから地域や場所によって検討内容が変わるということもある。
- ・もし、差し支えなければ、菖蒲高原の整備に取り組んでみるのはどうか。

【牛田委員】

- ・例えば、菖蒲高原のキャンプ場の整備について話し合うということは、こういったことがやりたいから整備を市にお願いをする方向性を議論するという形でよいか。

【江口委員】

- ・菖蒲高原の管理は市から業者に委託していると思うが、それと地域協議会との兼ね合いはどうなるのか。

【高野会長】

- ・そういうのを我々が入っていくのではなく、もう少し集客を何とか呼び込むことはできないかなということで、視察したとき、キャンプ場があればいいねっていうような意見がでた。
- ・我々の意見がすぐ採用になるわけではないでしょうし、キャンプ場を運営できる業者を誘致して、今現在ある管理にプラスして整備する。

【江口委員】

- ・業者にロッジの管理を委託していることは把握している。整備してキャンプ場や遊び場をつくるというのは、どのような手法を取ればいいのかよく分からない。

【高野会長】

- ・これから協議する内容を決める。

【江口委員】

- ・会長が言われているキャンプ場というのは菖蒲高原の上の方のキャンプ場のことか。

【高野会長】

- ・そこも含めて菖蒲高原全体をもう少し有効活用できないかという提案であって細部については、皆さんと協議していく形になる。

【牛田委員】

- ・実際にキャンプブームでキャンプする人が多いから整備するのであれば、実際に運営するのは我々地域協議会ではなく、業者や地域の方になるかと思う。誘客なども運営者の方が考えることとなる。
- ・キャンプといってもいろいろな方がいるので、必ずしも整備されたキャンプ場がいいわけではない。水もトイレも無くても、あえてそういったところの方がいいという人もいる。いろいろなスタイルがあるのでキャンプ場を運営することに関心のある人がないか、地元の人や団体に聞いてその土地をどのように活用するか詰めていく。
- ・その後に大島区としてキャンプ場を紹介していくのがいいのではないか。
- ・地域協議会以外の人でもここに載っていない場所、活用してほしいところがあるかもしれない。

【岩野副会長】

- ・実現するために、どういう手順を踏まなければいけないのかを知りたい。
- ・キャンプ場については、着地点が決まってないので、公園の整備の方が考えやすいのではないかと。公園の整備だと、まず、機能していない遊具の解体など手順が分かる。

【江口委員】

- ・キャンプ場っていう方向で会長が言っているので、今は、公園については議論しないほうがよいのではないかと。
- ・1つのテーマに絞りましょうという話で、菖蒲高原と言っているが、やり方が分からない。菖蒲高原についてまとまったら、次に公園の話を協議する形であり、菖蒲高原と併用しながら話を進めていくというのは、会長の提案と違うのではないかと。

【高野会長】

- ・事務局としてどのように協議を進めていくかなど説明をしてもらえないかと。

【本山次長】

- ・自主的審議事項なので、何をどのように考えていくかというのは、皆さんの中で決めていただく。
- ・結論ありきで進めるのもあるし、自主的審議を進める中で、これはこういうことだったから市に提案する必要はないというのもありである。絶対に市に提案する必要があるわけではない。
- ・皆さんが、審議していった上で、ここについては、こういうふうなことが考えられる。それであれば、この団体にこういう話をしてみようかというのもある。話し合った結果、団体では難しい部分は市で整備してもらおうとか、市に取り組んでもらうかと意見を提案するのもありである。
- ・皆さんが協議した上で、最終的にどうなるか。最初から目標を決めておいて、こういうふうに持ってきたいから目標に向かって話していこうでもよい。
- ・例えば菖蒲高原の今実際に運営している団体の話を聞いてみるなど他の人の意見を聞いてみる勉強会を開く方法もある。
- ・何をしなければならないというルールはないし、何をやってはいけないというルールもない。話し合っていく途中で、目的が変わってもよい。

【佐々木所長】

- ・菖蒲高原と比較して、公園の整備という話を、岩野副会長が上げたのは着地点という

キーワードなのかと思う。会長は菖蒲高原の整備はちょうどいいテーマではないかという働きかけをしていた。岩野副会長は着地点という部分で、公園の整備の方がイメージしやすい。菖蒲高原ややすらぎの森の整備の場合、着地点がどのような形となるかという投げかけだったと思うが、そこは事務局では答えられない部分となる。

- ・今、話し合った中で、着地点というテーマでは、公園の整備については、委員の皆さんが共有できるかもしれない。菖蒲高原については、着地点自体をどこへ持っていくかという議論をお願いすることになると思う。

【中原委員】

- ・公園の整備についてと菖蒲高原キャンプ場をもっと盛り上げられないかのどちらかを取り組むかという話で、私は、今ある公園を、少しでも改善して公園や遊べる場所があるということを、今住んでいる子供たちや子育てしている人たち、それから、維持を考えている人たちに伝えたい。
- ・公園がどうにかなるのか、ならないのかということも知りたい。
- ・菖蒲高原などの地域の活性化は、すごく必要なことではあると思うが、そちらを優先すると、子供もどんどん大きくなっていくのに公園についていつ頃取り組めるのかと思ってしまう。

【本山次長】

- ・自主的審議事項のテーマを絶対に今日決めなければならないということではないので、じっくり皆さんから意見を聞いて進める方法もあると思う。

【中村委員】

- ・どのテーマにしても、結局はお金がかかる話だと思う。そうすると、幾らぐらいまでの予算、例えば 100 万円程度のものしかできないのか。もちろんそんなのはないと思うが、1 千万円でも 1 億円でもかけてもいいのか。公園を整備するにしても、新しい遊具を買うことになれば、それなりの費用が必要になってくる。そうすると、大体どのぐらいの規模までならいいのかにより、整備の仕方や整備できる公園の数など決まってくると思う。
- ・予算的にはどれくらいという目途みたいなのもあるのか。

【佐々木所長】

- ・方法の 1 つとして、例えば皆さんの協議の中で公園を一定数集約して、どこかに集中したいのか、それとも、それぞれをどうにかしたいのか、不要なものを除却して綺

麗にしていきたいのかななどの方向性がある。

- ・大島区内の公園をこういう方向性で検討したいけれども、担当課はそれに対してどう思うかを聞く。選択と集中があって、ここに集中するのであれば、幾らくらいかけられますよという話になってくるかもしれない。そこは、こちらのやり方とキャッチボールの仕方次第となる。
- ・お膳立てが既にされていて、これぐらいの予算でということからは始まらない。

【牛田委員】

- ・今、話を聞いて思ったのが、大島区の住民にとっての理想の公園像とは何か。
- ・例えば既存の公園を整備してだけでなく、大島は雪が多いから体育館などの屋内に子供が遊べる遊具があるとよいかもしれない。子供たちが集まる場所と高齢者が集まる場所とは、異なる部分が出るかもしれない。どのエリアにどのくらいの施設があるのか、大島にはどんな施設があるのか。どんな施設が集まる場所として、ふさわしいのかを議論していくのがいいのかと思う。そうして初めて、こうした方がいいねという話になって、市に要望する話になるのではないかな。

【飯田委員】

- ・菖蒲高原と公園だとスケールが違い過ぎて、地域協議会委員 1 年生の私達には菖蒲高原に向かうのは難しい。中原委員や牛田委員の意見のように、公園について協議するのであれば、まだ見通しがいいように感じた。
- ・施設の概要を踏まえて考えていくのがいいのではないかな。

【江口委員】

- ・それだと最初に戻らなければいけない。会長が最初に、テーマをBグループの菖蒲高原か公園について、まずはどうですかという話になってきて、菖蒲高原について話していた。所長が公園の着地点の話をしてから、公園の話が盛り上がってきた。皆さん、最初はみんな会長の提案に「はい」と言っているのに、途中からまた戻り始めている。
- ・もう 1 回どういう思いでテーマを提案したのか、みんなどう考えたのかを決めてからやらないと進まないと思う。

【佐々木所長】

- ・あくまで自主的審議なので、別にこれをこうしなさいというような市からの要請ではないので、検討し直すのもよいと思う。

【高野会長】

- ・最初に話を進めてしまったが、現状把握を優先した方がいいのではないかと思いますので、一旦、振り出しに戻して、皆さん今一度考えていただいて、ご意見をいただきたい。

【江口委員】

- ・情報がなくて菖蒲高原も公園も、どういう状況になっているか分からない。何をどういうふうにするにしても、情報を地域協議会の中で共有し、調整しながら協議するというのはどうか。

【岩野副会長】

- ・昨年視察に行って、みんなで公園も回ってきた。公園では、遊具が劣化していて使えない状態だった。研修に参加した人は、見てきたが、またそういった機会があってもいいと思う。

【江口委員】

- ・見てきた感想ではなくて、例えば公園が7か所あるなら、どこに、どういう状況になっているかなど現状が見える写真がないと話が進まない。

【高野会長】

- ・区内視察研修については参加者が少なかったが、区内をまとめて案内いただき、施設を回った。
- ・公園については、私ども大島地区の地区別懇談会で、高齢化して草刈等維持ができないので、市でやってくれないかという話が出た。そうすると公園も意味がないのではないか。建築した後は何もできないので管理は他でやるようにでは、非常に無駄ではないかと思う。自分たちができる範囲で、公園を整備してそれを管理していくのであればいいと思う。ただ、ここが悪いから直してほしい、ここを草刈してほしいでは、意味をはき違えているように感じる。

【飯田委員】

- ・子供の遊べる場所という視点で考えれば、菖蒲高原も公園も、どっちもそうなので、これを一括りにしたらどうか。
- ・管理のことを入れたら本当に大変だということになれば、冬は全然使えないので、牛田委員の意見のとおり屋内でもいいと思う。

【中村委員】

- ・実際に空いている体育館などの建物もあるので、屋内の方が、遊具も長持ちすると思

うし、利用価値はある。

【牛田委員】

- ・ここでいう公園というのは必ずしも遊具の有無ではなく、住民が集まって楽しいと思える場所だと思う。屋内や屋外などを限定する必要もないし、キャンプができるかどうかで分ける必要もない。
- ・例えば大島区内で、大島地区にしかない施設だと旭地区の方は不便。どのくらいのバランスで、どのような施設があれば、集える場所として大島区内で成り立つのかという議論だけだったら、お金もかからない。
- ・誰かが管理しなければならないのであれば、管理を含めてどういった施設なら持続可能な場所として機能するのか考えてみてもよいのではないかな。

【佐々木所長】

- ・方向性として、興味関心があって、自主的審議事項として先に手をつけたいというテーマとしては、公園というイメージであるかどうかということ、更に議論していただき、仮にそういう方向性でということになると、また次の機会に、まず、大島区内にどんな公園があり、管理の主体はどこでやっているかとか、また、その管理はどういう項目の管理をしていて、幾らぐらいかかっているかとか、どの場所のどのような公園があるのかなど、基礎的な情報を見て、協議していただく中で絞っていく。
- ・まず、全体として理想的な配置なのかや、屋内屋外も含めた資料を事務局から提供しながら、方向性について決めたらいかかがか。

【高野会長】

- ・公園に囚われず、人が集う施設などについて、公園や集会所等、屋内を含め、若い人からお年寄りまで寄っていただける施設の資料を事務局から作っていただいてから、また話し合う形でよいかな。

【牛田委員】

- ・今、公園と言われるものがどこにあるのか。区内に農村公園が 7 つあると言われていたが、それ以外とはどう分けられているのか。

【佐々木所長】

- ・市の施設については、条例によって定められている。

【牛田委員】

- ・実際に公園の機能をなしていないところを公園では無くしたり、あるいは、今後、新

たな公園にしてもらうときに、こういったステップを踏まねばならないのかも知りたい。

【本山次長】

- ・条例で決まっていて、作ったときの目的によって活用方法の範囲が変わってくる。例えば、農村公園という表現のものがあったり、児童遊園という表現のものがあったり、公営住宅のそばには公園をつくらなければならないというルールがあったり、いろいろな公園の整備の仕方が条例によって変わる。

【高野会長】

- ・あとは管理しているところが、どこなのかというのも知りたい。
- ・公園の名前と場所等でそれを管理しているのがどこなのか。公園は市の土地なのか。

【本山次長】

- ・公園はいろいろなパターンがある。借地もある。市の土地もある。無償提供していただいているところもある。

【高野会長】

- ・管理費として、年間どれぐらいかかっているのか。あとは実態とすれば全然使っていないような公園があれば、丸三角でもいいし、大ざっぱな感じで表してほしい。

【牛田委員】

- ・例えば、市内に、屋内型の公園は存在するのか。

【佐々木所長】

- ・公園と言ってよいかは分からないが、オーレンプラザに子育て広場がある。

【高野会長】

- ・自主的審議事項の決定とはならなかったが、再度、意見を考えて来ていただきたい。資料については事務局よろしく願いしたい。

【江口委員】

- ・菖蒲高原の資料というのは出てくるのか。まだ公園に決定したわけではないので、菖蒲高原についても必要だと思う。

【高橋班長】

- ・次回までに事務局で用意しなければいけない資料を確認させていただきたい。
- ・公園と言われる施設の詳細、4地区のセンターや生涯学習センターの状況。キャンプ場については、菖蒲高原キャンプ場ややすらぎの森の情報をそろえるということで

よいか。

【牛田委員】

- ・田麦ぶなの森は、今はもう私有地となっている。管理もしてなくて散策に利用させてもらっている。

【高橋班長】

- ・情報として、写真と位置情報、管理しているところがどこなのか、団体なのか市なのか。
- ・土地の関係は、協議が始まってからでもよいか。

【本山次長】

- ・条例に載っているかに限らずということか。

【牛田委員】

- ・大変なようなら、分かる範囲でよい。また協議していく中で必要になったら資料をいただきたい。

【本山次長】

- ・設置したときの目的やどんな補助金を使ったかによって、農村公園や児童遊園のように位置づけが変わってくる。やすらぎの森も、公園の1つである。

【江口委員】

- ・あやめ園は公園の扱いなのか。公園として存在して集落で草刈りしている。

【本山次長】

- ・整備当初は河川公園という位置づけであった。
- ・大島生活改善センターの前の川の方も河川公園という位置づけですし、仁上のホテル橋付近も、河川公園ということで当初、整備した。

【佐々木所長】

- ・全市で見ると、実は合併前の町村時代の状況がバラバラで、農村公園が多い区、児童遊園が多い区、ほとんどない区など全然違う。

【高野会長】

- ・本日は自主的審議事項の決定に至らなかったもので、次回に持ち越しする。
- ・また、いい案などがあったら考えていただきたいと思う。
- ・資料については、間に合い次第、配布をお願いしたい。

【中原委員】

- ・私が最初に公園というワードを出した。一番知りたいことは、現状あるその遊具が使用禁止になっている状況を、これからどうなるのか。誰かが管理しているのか、もう無くなるのか。
- ・それが分かれば、市に要望などをあげられるのか、地域でもっと工夫してやっていくのかなど、いろいろ考えられる。
- ・保育園の横の公園も、あとどのくらい遊べるのか、誰が管理しているのか、そういうのが一番先に知りたかった内容である。
- ・公園が7か所あることも、私はこの会議で知った。公園の協議を始めて、大方めどがついたところで、キャンプ場の協議をするという感じにできないか。

【江口委員】

- ・資料を用意してもらっただけであれば、別に公園のみを協議する必要はないと思う。

【高野会長】

- ・最初に戻して皆さんから意見をいただきたい。
- ・資料を見れば施設がどこにあるか、どんな名称で、どのような目的の施設なのか、ある程度把握できると思う。会議の前に資料を配布していただきたい。

【牛田委員】

- ・いただいた資料をしっかりと読んで、既存の施設をどうしていくのかというのを考えてくればよいということでしょうか。

【高野会長】

- ・はい。事前にいただいた資料をよく読んで勉強をしてくださっていただき、意見を出していただければと思う。

【高野会長】

- ・その他事項（1）令和7年度第5回地域協議会の開催日について、8月22日（金）午後5時00分から大島コミュニティプラザで開催することとしてよいか。

（「はい」の声）

- ・事務局は事前に区内の施設に関する資料の配布をお願いしたい。
- ・ほかに発言を求めるもなし。
- ・それでは、以上をもって第4回地域協議会を閉会する。

9 問合せ先

大島区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-594-3101（内線63）

E-mail : oshima-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。